

論題背景とプラン作成のポイント

論題背景

「ベーシックインカム(Basic Income)とは、齋藤(2004)の定義によれば「個人ベースで、資力調査および就労要請なしに、すべての人に無条件であたえられる所得」です。

2016年6月5日、スイスでベーシックインカム支給の是非を問う国民投票が行われ、否決されたことで、一般に知られるようになってきました。イランでは既に2011年から国家規模でベーシックインカム制度を導入しています。その他、実験的に一部の国民にベーシックインカムを支給する国が増えてきました。なかでも、フィンランドの例はメディアによく取り上げられています。

主なメリットとしては、貧困層の救済、景気の好転、少子化の緩和などが挙げられます。一方、デメリットとしては、膨大な政府支出、勤労意欲の低下などが挙げられます。

もし台湾でベーシックインカム制度が実施されたら、みなさんの生活はどのように変化するのでしょうか。それはいい変化でしょうか。悪い変化でしょうか。

プラン作成のポイント

「だれが」「いつ」「どのように」ベーシックインカムを実行するかを明確にする必要があります。「だれが」については、今回の論題では台湾政府が行うことになります。「いつ」については各チームの判断にお任せしますが、必ずプラン内で明示するようにしてください。一番問題になるのは「どのように」の部分なので、以下順を追って説明します。

まず、法律を改正してベーシックインカムを給付するようにしなければなりません。ただし、ここでは野党が反対するので法律が成立しない可能性は考えないものとします。

次に、誰に給付するかですが、今回の大会では、議論を単純化するために、ベーシックインカム支給の対象を「台湾国内に居住する、台湾国籍を有する者」とします。

それから、一番重要なのが支給額をいくりにするか、という問題です。少なすぎでは意味がありませんが、多すぎても問題が起きてくるでしょう。また、ベーシックインカムの給付総額がここで決まります。また、支給額は年齢にかかわらず同額としてください。

また、ベーシックインカムの財源についてもふれる必要があります。所得税の税率変更や消費税の税率引き上げなどいろいろな可能性が考えられますが、シミュレーションの例として最も多く挙げられているのは所得税を財源とするもので、累進課税を無くした「フラット

タックス」とするのが一般的です。

もう一つ重要なポイントとして、既存の社会保障を存続させるのか、廃止するのかという問題があります。額の大きなものとしては「社会保険」および「年金」が挙げられるでしょう。例えば、台湾の民国 105 年度の歳出はおよそ 1 兆 9759 億元でしたが、そのうち「社会保険支出」は約 3140 億元・「退休撫卹給付支出」は約 1470 億元でした。それぞれ歳出の 15.9%・7.4%にあたります。ベーシックインカム給付とともにこれらの社会保障を廃止してしまえば、増税額を減少させることができるわけですが、そのために新たな問題も起こってくるでしょう。思案のしどころです。

今回の論題では、メリット・デメリットともに、プランも重要な争点になりますので、しっかり準備してください。

参考 WEB サイト

行政院主計總處－105 年度中央政府總預算

<http://www.dgbas.gov.tw/ct.asp?xItem=39127&CtNode=6185&mp=1>